

事業の実施状況等について

【旭区】 (受託者等:地域運営アドバイザー業務非常勤嘱託職員)

1 取組実績の評価(1) (ア～エは受託者が記入 オからは区が記入)

(※) I 地域課題への取組 II つながりの拡充 III 組織運営 IV 区独自取組

項目(※)	I	II	III	IV	ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要	(上段) イ 支援実績及び自己評価 (下段) オ 支援実績に対する評価	(上段) ウ 支援の有効性についての自己評価 (下段) カ 支援の有効性についての評価	(上段) エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等 (下段) キ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施状況 百律的運営に向けた地域活動協議会の取組(イメージ)	○				<ul style="list-style-type: none"> <li>●全地域との意見交換会の実施(7～8月)により、地域課題やニーズの把握に努めると共に、法人格取得の意義についても、再度説明を行う。</li> <li>●自己財源の確保のための取組み(コミュニティ回収の実施及び民間助成金の活用など)についての説明会の開催(7～12月)。</li> <li>●取組み事例共有会の開催(10～1月)により、地域課題やニーズに対応した活動が実施できるよう支援する。</li> </ul>	受託者 ●全地域との意見交換会を実施する中で、「認知度の向上」「会議の定期開催」「部会活動の活性化」「担い手の確保」「会計の負担軽減」「自主財源の確保」といった課題認識が共有された。法人格取得の意義についても説明を行い、理解が深まった。 区 <ul style="list-style-type: none"> <li>●自主財源の確保にかかる説明会等の実施(4地域)により、コミュニティ回収の実施(2地域)及び民間助成金の活用(1地域)が創出された。</li> <li>●11月25日に取組み事例共有会を「部会活動の活性化」「担い手の確保」「自主財源の確保」をテーマに開催。(56名参加)「大変参考になった。」「今後の取組みの目標が出来た。」など、各地域で自律に向けた話し合いが行われつつある。</li> </ul>	●地域課題やニーズに対応した活動を実施しようとする動きが広がっていることから、支援の有効性が認められる。 ●自主財源の確保について、地域でも検討が進んでいることから、支援の有効性が認められる。	●課題認識を踏まえ、各地域の先行的な取組み事例及び他区の取組み事例を共有する場を提供し、地域課題やニーズに対応した活動が、地域自らの企画の中で実施できるよう支援する。
		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページ・かわら版作成支援等による広報活動を促進(通年)しながら、「広報が担う役割、必要性」を再度認識してもらえよう支援する。</li> <li>●地域公共人材等の活用を通じて、様々な活動主体との連携・協働を実現していく。</li> <li>●「地域カルテ」作成支援のためのワークショップを開催(12～3月)する中で、他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが生まれるよう支援する。</li> </ul>	受託者 <ul style="list-style-type: none"> <li>●広報担当の担い手の発掘(2地域)により、広報活動が効果的に行えるようになった。</li> <li>●新たな企画検討の場で、地域公共人材を活用(1地域)した。</li> </ul> 区 <ul style="list-style-type: none"> <li>●構成する活動主体同士の連携・協働【地域活動協議会内部】が進んでいる。(構成団体相互の関係づくりが進み、新たな事業の創出(生江ハロウィン祭り)、新たなボランティア団体の設立(城北SVS)といった動きが出ている。)</li> </ul>	●地域活動に関わりが薄かった住民の参加促進につながるよう、より効果的な広報活動が必要。(専門的な知識を有する担い手の発掘等により、広報事業が大きく進展するといった大きな成果に繋がっている地域もある。) ●他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが必要。(防災というテーマを通じて、学校園及び事業所等との連携は強まりつつある。)	●「地域カルテ」作成支援のためのワークショップを継続的に開催する中で、他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが生まれるよう支援する。
				○	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業報告・会計報告の支援(4～6月)</li> <li>●組織運営の基礎チェック(4～6月) 様々な意見が反映されるような会議等の開催支援、会計ソフトの提供等による会計担当者への支援、ホームページの運営支援やかわら版の作成支援により、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が継続して確保されるよう支援する。</li> </ul>	受託者 ●「組織運営」については、概ね8割程度達成。支援を一部受けながらであればすべて実施可能な状態になっている。	●組織運営、会計や広報について、蓄積されたノウハウが広く共有できるしくみが必要。	●組織運営、会計や広報について、蓄積されたノウハウを地域活動協議会でより一層共有できるよう支援する。

2 取組実績の評価(2) (ア～エは受託者が記入 オからキは区が記入)

項目		ア 事業者選定時における企画提案(事業計画書)の概要		(上段) イ 支援実績及び自己評価 (下段) オ 支援実績に対する評価	(上段) ウ 支援の有効性についての自己評価 (下段) カ 支援の有効性についての評価	(上段) エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等 (下段) キ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
事業の実施体制等	(1)自由提案による地域支援の実施状況  (企画提案書(事業計画書)等で受託者が提案したもの)	—		受託者		
				区		
	(2-1)スーパーバイザー、アドバイザー及び地域まわづくり支援員の体制	●地域運営アドバイザー2名 週5日×6H×2名 ●事務補助員(再任用職員) 週5日×6H×1名		受託者		
				区	●事業実施体制は、本区の求める水準に達している。 ●地域活動協議会の円滑な運営や事業実施に有効な支援であった。	●地域活動協議会の円滑な運営や事業実施のための支援がより一層効果的に行われるよう課題分析し、実施していきたい。
	(2-2)フォロー(バックアップ)体制等	●専門アドバイザー:河原伸一(会計ソフト及びホームページ運営支援)会計ソフトの開発及びホームページ運営支援について、バックアップを実施。		受託者		
				区	●会計ソフトの開発やホームページ運営支援について、専門スタッフによるバックアップが行われていた。 ●地域が自ら企画しての活動(会計ソフト開発及びホームページのモバイル化)に対して、きめ細かく対応できていることから、支援の有効性が認められる。	●課題認識を踏まえ、地域課題やニーズに対応した活動が、地域自らの企画の中で更に実施できるよう支援する。 ●外部アドバイザーのサポート体制について、地域公共人材バンクの活用も含めて検討していきたい。
(3)区のマネジメントに対応した取組	—		受託者			
			区			

3 区の方針・戦略を踏まえた今年度の重点支援策(取組)に関する評価(ア～エは受託者が記入 オからキは区が記入)

支援策(取組)名称	ア 支援策(取組)の内容	(上段) イ 支援実績及び自己評価 (下段) オ 支援実績に対する評価	(上段) ウ 支援の有効性についての自己評価 (下段) カ 支援の有効性についての評価	(上段) エ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等 (下段) キ 左記の自己評価を踏まえた課題分析と改善策等
地域課題等の把握のための意見交換会等の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>●全地域との意見交換会の実施(7～8月)により、地域課題やニーズの把握に努めると共に、法人格取得の意義についても、再度説明を行う。</li> <li>●自己財源の確保のための取組(コミュニティ回収の実施及び民間助成金の活用など)についての説明会の開催(7～12月)。</li> <li>●取組み事例共有会の開催(10～1月)により、地域課題やニーズに対応した活動が実施できるよう支援する。</li> </ul>	<p>受託者</p> <p>区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●全地域との意見交換会を実施する中で、「認知度の向上」「会議の定期開催」「部会活動の活性化」「担い手の確保」「会計の負担軽減」「自主財源の確保」といった課題認識が共有された。法人格取得の意義についても説明を行い、理解が深まった。</li> <li>●自主財源の確保にかかる説明会等の実施(4地域)により、コミュニティ回収の実施(2地域)及び民間助成金の活用(1地域)が創出された。</li> <li>●11月25日に取組み事例共有会を「部会活動の活性化」「担い手の確保」「自主財源の確保」をテーマに開催。(56名参加)「大変参考になった。」「今後の取組みの目標が出来た。」など、各地域で自律に向けた話し合いが行われつつある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域課題やニーズに対応した活動を実施しようとする動きが広がっていることから、支援の有効性が認められる。</li> <li>●自主財源の確保について、地域でも検討が進んでいることから、支援の有効性が認められる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題認識を踏まえ、各地域の先行的な取組み事例及び他区の取組み事例を共有する場を提供し、地域課題やニーズに対応した活動が、地域自らの企画の中で実施できるよう支援する。</li> </ul>
他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】の機会になるような「地域カルテ作成ワークショップ」の開催。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページ・かわら版作成支援等による広報活動を促進(通年)しながら、「広報が担う役割、必要性」を再度認識してもらえよう支援する。</li> <li>●地域公共人材等の活用を通じて、様々な活動主体との連携・協働を実現していく。</li> <li>●「地域カルテ」作成支援のためのワークショップを開催(12～3月)する中で、他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが生まれるよう支援する。</li> </ul>	<p>受託者</p> <p>区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●広報担当の担い手の発掘(2地域)により、広報活動が効果的に行えるようになった。</li> <li>●新たな企画検討の場で、地域公共人材を活用(1地域)した。</li> <li>●構成する活動主体同士の連携・協働【地域活動協議会内部】が進んでいる。(構成団体相互の関係づくりが進み、新たな事業の創出(生江ハロウィン祭り)、新たなボランティア団体の設立(城北SVS)といった動きが出ている。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域活動に関わりが薄かった住民の参加促進につながるよう、より効果的な広報活動が必要。(専門的な知識を有する担い手の発掘等により、広報事業が大きく進展するといった大きな成果に繋がっている地域もある。)</li> <li>●他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが必要。(防災というテーマを通じて、学校園及び事業所等との連携は強まりつつある。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「地域カルテ」作成支援のためのワークショップを継続的に開催する中で、他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが生まれるよう支援する。</li> </ul>
自律的な組織運営に向けた積極的な支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>●事業報告・会計報告の支援(4～6月)</li> <li>●組織運営の基礎チェック(4～6月)</li> </ul> <p>様々な意見が反映されるような会議等の開催支援、会計ソフトの提供等による会計担当者への支援、ホームページの運営支援やかわら版の作成支援により、民主的で開かれた組織運営と会計の透明性が継続して確保されるよう支援する。</p>	<p>受託者</p> <p>区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「組織運営」については、概ね8割程度達成。支援を一部受けながらであればすべて実施可能な状態になっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組織運営、会計や広報について、蓄積されたノウハウが広く共有できるしくみが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●組織運営、会計や広報について、蓄積されたノウハウを地域活動協議会でより一層共有できるよう支援する。</li> </ul>

4 取組効果の評価(アウトカムに対する評価)[上記3の内容も含めて](ア～ウは受託者が記入 エからカは区が記入)

項目		(上段) ア 取組効果に対する自己評価 (下段) エ 取組効果に対する評価	(上段) イ 問題点の要因分析 (下段) オ 問題点の要因分析に対する評価	(上段) ウ 今後の改善策等 (下段) カ 今後の改善策等に対する評価
目標等の達成状況	(1) アンケート調査	受託者 ●地域が自律的に運営されていると感じている割合は42.9%で、目標である50%には達していない。 区 ●課題やニーズに応じた支援を受けていると感じている割合は62.6%で、目標である50%に達している。	●地域活動協議会や自律的な地域運営の意義については、より一層の理解の浸透を図る必要がある。	●アンケート結果を踏まえ、ニーズに対応した支援を検討し、実施していきたい。
	(2-1) 「I 地域課題への取組」の達成状況	受託者 ●全地域との意見交換会を実施する中で、「認知度の向上」「会議の定期開催」「部会活動の活性化」「担い手の確保」「会計の負担軽減」「自主財源の確保」といった課題認識が共有された。法人格取得の意義についても説明を行い、理解が深まった。 区 ●自主財源の確保にかかる説明会等の実施(4地域)により、コミュニティ回収の実施(2地域)及び民間助成金の活用(1地域)が創出された。 ●11月25日に取組み事例共有会を「部会活動の活性化」「担い手の確保」「自主財源の確保」をテーマに開催。(56名参加)「大変参考になった。」「今後の取組みの目標が出来た。」など、各地域で自律に向けた話し合いが行われつつある。	●地域課題やニーズに対応した活動を実施しようとする動きが広がっていることから、支援の有効性は認められるが、そこから具体的な形を作り出していく必要がある。	●課題認識を踏まえ、各地域の先行的な取組み事例及び他区の実例を共有する場を提供し、地域課題やニーズに対応した活動が、地域自らの企画の中で実施できるよう支援する。
	(2-2) 「II つながりの拡充」の達成状況	受託者 ●広報担当の担い手の発掘(2地域)により、広報活動が効果的に行えるようになった。 ●新たな企画検討の場で、地域公共人材を活用(1地域)した。 区 ●構成する活動主体同士の連携・協働【地域活動協議会内部】が進んでいる。(構成団体相互の関係づくりが進み、新たな事業の創出(生江ハロウィン祭り)、新たなボランティア団体の設立(城北SVS)といった動きが出ている。)	●地域活動に関わりが薄かった住民の参加促進につながるよう、より効果的な広報活動が必要。(専門的な知識を有する担い手の発掘等により、広報事業が大きく進展するといった大きな成果に繋がっている地域もある。) ●他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが必要。(防災というテーマを通じて、学校園及び事業所等との連携は強まりつつある。)	●「地域カルテ」作成支援のためのワークショップを継続的に開催する中で、他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが生まれるよう支援する。
	(2-3) 「III 組織運営」の達成状況	受託者 ●「組織運営」については、概ね8割程度達成。支援を一部受けながらであればすべて実施可能な状態になっている。 区	●組織運営、会計や広報について、蓄積されたノウハウが広く共有できるしくみが必要。	●組織運営、会計や広報について、蓄積されたノウハウを地域活動協議会でより一層共有できるよう支援する。
	(2-4) 「IV 区独自取組」の達成状況	受託者 区 —	区 —	区 —
	(3) その他の効果のあった内容	受託者 区 —	区 —	区 —

5 総合評価

総合評価 I	(1) 地域課題等の把握・分析・整理	受託者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域課題やニーズに対応した活動を実施しようとする動きが出ている。(地域のニーズを把握するための全世帯アンケートを実施したり、地域の課題解決と活性化を目的とした有志の会が、地活協の中で部会を横断して設立されたりと、地域自らが変わろうとする動きは見受けられる。)</li> <li>●自主財源の確保について、地域でも検討されつつある。(コミュニティ回収及び民間助成金への関心が強まっている。)</li> <li>●地域活動に関わりが薄かった住民の参加促進につながるよう、より効果的な広報活動が必要。(専門的な知識を有する担い手の発掘等により、広報事業が大きく進展するといった大きな成果に繋がっている地域もある。)</li> <li>区 ●構成する活動主体同士の連携・協働【地域活動協議会内部】が進んでいる。(構成団体相互の関係づくりが進み、新たな事業の創出(生江ハロウィン祭り)、新たなボランティア団体の設立(城北SVS)といった動きは出ている。)</li> <li>●他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが必要。(防災というテーマを通じて、学校園及び事業所等との連携が強まりつつある。)</li> </ul>
	(2) 目標(支援策)の明確化とそこに向けた戦略・シナリオの策定	受託者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●意見交換会で出た課題認識を踏まえ、各地域の先行的な取組み事例及び他区の取組み事例を共有する場を提供し、地域課題やニーズに対応した活動が、地域自らの企画の中で事業実施できるよう支援する。</li> <li>●区広報紙の活用及び区内官公署施設及び地下鉄等を活用して、より効果的な広報活動を、地域と連携して実施する。</li> <li>区 ●ホームページ・かわら版作成支援等による広報活動を促進(通年)しながら、「広報が担う役割、必要性」を再度認識してもらえよう支援する。</li> <li>●「地域カルテ」作成支援のためのワークショップを継続的に開催する中で、他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような具体的な取り組みが生まれるよう支援する。</li> </ul>
	(3) 区のマネジメントに合った取組	受託者	区
↓			
総合評価 II	総合評価(全体)	受託者	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域課題やニーズを把握し、具体的な支援が有効に実施されている。</li> <li>区 ●今後、自律的な地域運営に向けて、地域課題やニーズに対応した活動が地域自らの企画の中で実施できるよう、また他の活動主体同士の連携・協働【外部との連携・協働】が進むような支援を行っていく。</li> </ul>